

令和3年度 学校自己評価・関係者評価

加古川市立志方西小学校

令和3年度に取り組んできたことに対する学校評価を公表いたします。本年度当初に示した重点目標や、その具体的な方策に対して、教職員や保護者の皆様からのアンケート結果をもとに、学校が4段階で自己評価をし、次年度に向けた改善方策を策定しています。これをもとに、学校運営協議会の皆様に、学校の取り組みを学校関係者評価としてしていただきました。以下はその内容を取りまとめたものです。

学校教育目標

「豊かな心を持ち、自ら学び、ともに生きる子の育成」
めざす児童像：よく考える子 ・素直で優しい子 ・元気で明るい子
めざす学校像：子どもと職員の幸福感があふれる学校

I 教育活動に関するもの

A：十分到達している B：到達している C：やや到達不足である D：できていない

本年度重点指導事項	本年度の具体的な方策	教職員アンケート結果	保護者アンケート結果	学校自己評価	次年度に向けた改善の方策	学校関係者評価
魅力ある授業の創造	主体的な学びの姿勢	A	A	B	○外部団体や専門機関との連携協力による出前授業等を積極的に活用し、児童にとって魅力的でより専門性の高い授業づくりに努める。【継続】 ○「学習の手引き」を活用した、家庭と連携した基本的な学習習慣の確立。【新規】 ○全教科において、協同的探究学習のスタイル(児童の多様な考えを引き出し、関連付け、一人一人の理解を深める)を意識した授業を行い、「できる学力」の定着と「わかる学力」の育成を図る。【新規】 ○朝の学習タイムをオープンスクール等で全クラスが公開する。また、一人一台端末や電子黒板、デジタル教科書等を積極的に活用した授業を公開する。【新規】	○コロナ禍において、リモートや動画配信をするなど、状況に応じてできることをやっている。 ○教職員アンケートに比べ、保護者のそれが高評価なのは良かった。しかし、肯定的評価であっても意見欄には、今後、改善が必要な箇所も見られるので善処されたい。学校自己評価をBとしていること、そして、3つの新規方策を設定していることに意欲を感じる。 ○録画、動画配信等、学校が本気になれば、代替案を用意して行えることが実証された。昨年度は、不安要素が多くあったが、コロナ禍2年目においては、教職員の努力と決意が強く感じられた。
	基礎・基本的な内容の確実な定着	B	A			
	「わかる学力」の育成	B	A			
	ICTの活用	C	B			
心の教育の充実	道徳性の育成	A	A	A	○子どもの発言を受容し、共に考え、悩み、夢や希望を共有する姿勢で、子どもの心に響く道徳科の授業を行い、道徳的な実践力を高める。【新規】 ○いじめ防止に繋がる道徳教材を、学級づくりの時期(4~5月)やいじめ防止啓発月間(9月)に合わせて全学年で実施し、いじめを許さない強い心とともに相手を思いやる温かい心を育む。【継続】 ○アセスや心の相談アンケートを積極的に活用し、いじめの積極的認知及びいじめ見逃しゼロ、不登校の未然防止をめざす。【継続】 ○西っ子活動(縦割り活動)の充実を図るとともに、他小学校とリモート交流をする等、交流活動の更なる発展をめざす。【継続】 ○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図る。令和3年度以降も血池のいぼり体験の継続を図り、地域とともにある学校づくりをめざす。【継続】	○このような時代だからこそ、友達と協力し、繋がるということ、団結する経験を心の宝として、目標をもって全力投球の気持ちで取り組んでほしい。 ○教職員の人間性で教育活動を行うとともに、中身のある取組ができています。児童は、教職員をはじめとする大人の一拳一投足をよく見ている。これからも教育の本質、豊かな人間性を育む教育を大切にしていきたい。 ○アンケートの中に「いじめに近い言葉」とあったが、今後もいじめの兆候、児童の些細なサインを見逃すことなく対応してほしい。 ○無償であっても人のために何かをするという心を育てるために、小さいころからの「人の心が分かる教育」が大切である。 ○新型コロナウイルス感染症から回復した児童へのいじめの危険性がある。人権問題につながることもふまえ、長い目での見守りが必要である。 ○マスク着用生活で児童のコミュニケーションはどのような状況なのか気になる場所がある。豊かなコミュニケーションがとれるような工夫が必要である。
	道徳的実践力の育成	B	A			
	交流活動の充実	A	A			
健康で安全な暮らしの推進	健康な身体づくりの推進	A	A	A	○運動会を持続可能な学校行事とするために実施方法を工夫する。【継続】 ○専門機関と連携協力した取り組みを推進する。【継続】 ・薬物乱用防止教室 ・インターネットトラブル防止講座 ・交通安全教室(自転車の安全な乗り方講習も実施) ・1.17追悼集会への語りべ講師の招聘 ○危機管理マニュアルを活用した教職員の研修を実施し、学校安全の3領域(生活安全・交通安全・災害安全)について安全・防災意識を高める。【継続】 ○委員会活動を中心にした体育的行事や安全のための取り組みを推進する。【継続】	○児童は、コロナで大変だったけれども、コロナだからこそ学べたこともある。我々の子どもの頃とは違う、一人一人の健康の大切さを今の児童は、より深く学んでいるのではないだろうか。公共の中に生きる一員として自覚ある行動ができるようになっていく。 ○自然の天災は、人間の力の及ばぬ限界があると思うが、人災は、未然に防げる。人間として助け合って生きていくという心を児童に育んでほしい。
	健康・安全意識の確立や生活習慣の定着	A	A			
	安全指導の充実と安全・防災意識の確立	B	A			
学校・家庭・地域との連携を深める	開かれた学校	A	A	A	○HPや学校だより、39メールや学年だよりを積極的に活用し、学校や児童の様子を保護者や地域の方々により分かりやすく情報発信していく。【継続】 ○保護者が教育相談を年間を通していつでも受けられるよう相談体制を整備する。【継続】 ○「まちづくりの拠点」として、今後も学校が地域と共にあり続けられるよう、地域の方々からの声を大切にし、このまちの未来を創造するカリキュラム開発に努める(総合的な学習の時間を中心に)。【継続】 ○「ため池」ふるさと学習を通じて、地域でのふれあい活動の充実を図る。【継続】 ○志方中学校区をあげて、挨拶運動を継続実施する。【継続】 ○志方中学校区ユニット推進部会、志方中学校区学校運営協議会における協議事項について、教職員間で共通理解し、全教職員が同じ方向でユニット内の連携に努める。【継続】	○コロナ禍の中、学校行事等を中止ではなく、延期、または縮小、短縮にし、児童の学習の成果を披露する機会を模索し、実行してきたことは高く評価する。 ○様々な農業体験、ため池の取り組みなど、豊かな地域の素材を活用してふるさと学習へとつなげて取り組んでいることが素晴らしい。 ○テレビで4年生の児童のため池学習の発表を見て、自然豊かな中で地域のことを大切に思い、創意工夫している姿に感動した。今後も、児童が喜んで登校し、学習する日々を全力で応援し、見守ってほしい。 ○下校する児童の姿を見守っている。長いスパンのなかで、最初は挨拶ができなかった児童が、こちらから粘り強く挨拶することで、自分から進んで挨拶してくれるようになった。大人自身の姿で語りかけ、児童の成長へとつなげたい。 ○児童は大人の鏡でもある。児童の姿から大人自らの姿をふり返りたい。 ○令和4年度は、創立150周年記念行事をひかえているが、ふるさとの歴史に改めて目を向け、地域と触れ合う機会ととらえて進めてほしい。
	保護者との連携	A	A			
	地域との連携	A	A			
	コミュニティスクール	B	A			
特別支援教育の推進	個別の指導計画に基づく指導の充実と、支援教育の啓発に努める。	A		A	○それぞれの子どもの実態を把握し、職員全体で情報を共有し、大勢の目で一人の子どもを見守る(みんなで見んなを)ということは今後も大切にしたい。【継続】 ○教職員自身がこのまちのよさを知るために、ふるさとの地理や歴史等を学ぶ研修の機会を持つ。地域学講座の継続実施。【継続】 ○縦割りの西っ子活動や児童会活動を通して、上級生の姿をロールモデルとして下級生にも示すことで、リーダーシップや思いやり、協働の心を育て、目標を持って行事に参加させる。【継続】 ○各学年の発達段階に応じた情報活用能力・情報モラルを計画的に身に付けさせ、積み上げていく。【新規】 ○異学年交流や地域の方々、高齢者の方とのふれあいが子どもたちにもたらすよい効果をこれからも大切にしたい。【継続】 ○福祉教育体験活動(アイマスク体験、車いす体験、手話体験、介護老人福祉施設との交流等)の充実を努める。【継続】	○児童一人一人に目が届きやすいという小規模校の利点を生かして、これからも児童を丁寧に見守ってほしい。 ○情報活用能力の育成とともに、情報モラル、端末の正しい使い方・ルールを身に付けさせることにも力を入れてほしい。
総合的な学習の推進	地域での活動を積極的に進めながらカリキュラムへの位置づけを図り、探求する学習の充実を図る。	A				
特別活動の推進	いきいきと活動できる学級経営を基盤にすえて、委員会や児童会活動の活性化を図る。	A				
情報教育の推進	情報活用能力、情報モラル等の育成に努める。	A				
福祉教育の推進	異学年交流や地域との交流を通して人を思いやる心を育てる。	B				
職員間の共通理解	学校教育目標の実現にむけ、共通理解や意志の疎通を十分図る。	A				
運営の活性化	PDCAサイクルを活かした運営を行い、教育活動を活性化させる。	A				
教職員の資質向上	授業研究や研修を計画的に行い、指導力の向上に努める。	A				
施設・設備の維持管理	各教室や特別教室など、教育環境を整え整備する。	A				

II 運営に関するもの

職員間の共通理解	学校教育目標の実現にむけ、共通理解や意志の疎通を十分図る。	A		A	○小規模校のメリットを生かして、教職員間で素早い情報共有を行い、チームとしての的確かつ真摯に対応する。【継続】 ○学校行事等の終了後の振り返りを大切にするとともに、改善できることは即実行にうつすことを心がける。また改善策が必ず実行ある取組となっていくよう、その進捗状況を定期的に確認していく(進捗管理の徹底)。【継続】 ○授業研究を通して授業の技術を磨くとともに、OJTやベテラン教職員、スーパーティーチャー等を講師にし、状況に合わせた研修を行う。【継続】 ○教職員にとって「働くこと」が「健康」「幸せ」につながるよう、明るく働きやすい職場をめざす。【継続】	○用務員を中心として、草刈等を計画的に実施できており、教育環境の維持がしっかりとできています。 ○今後もPDCAサイクルを活かした運営を基本とし、教職員にとって「働くこと」が「健康」「幸せ」につながる明るく働きやすい職場をめざしてほしい。
運営の活性化	PDCAサイクルを活かした運営を行い、教育活動を活性化させる。	A				
教職員の資質向上	授業研究や研修を計画的に行い、指導力の向上に努める。	A				
施設・設備の維持管理	各教室や特別教室など、教育環境を整え整備する。	A				

(A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：49%以下) 【継続】継続実施 【新規】R4年度から新たに実施